

## 地区研修協議会部門別会議の報告 次年度各委員長

### クラブ奉仕部門

奥山 聡委員長

最初に「ロータリークラブ自己評価表」が渡され、44項目について自クラブの採点をしました。また、ロータリークラブの統計資料の説明、その後、来期の3つの活動方針の説明がありました。①各クラブに於ける運営戦略立案の後押し。②IT活用の推進。具体的には、「MY ROTRY」アカウント登録の推進や「ロータリークラブ・セントラル」の活用をお願いします。IT利用状況の資料では、当クラブは69クラブ中、下から3番目でした。③公共イメージ向上の推進。ただし、今までの「大型ビジョン」による広告は、費用のわりに効果がないのではないかという話になり中止。その代り、各クラブのイベントの時にマスコミに取材を依頼し、広告の代わりにマスコミを使ってロータリーを広めるという方針でした。ただ、東京の場合はマスコミが大手になり、イベントも多いので難しいのでは、という話もありました。

### 職業奉仕奉仕部門

岩佐 彰彦会員

「ロータリーは職業奉仕」と題してのお話がありました。主な内容は、昨今の日本ロータリアンの減少は、バブル崩壊、リーマンショックの日本経済への衝撃が大きく影響しているのではないかとということ、そして、現代の伝統的倫理観の欠如により、一部の企業に見られるような日本人の職業倫理に反する現象、生産地や賞味期限の食品偽装問題等が頻発しており、今こそロータリーの歴史を振り返りながら、職業サービスの原理を見直そうではないかというものでした。ロータリーの誕生秘話や、近江商人の石田梅岩の紹介もありました。また、職業奉仕は、「世のため人に奉仕する心をもって職業を営むべし」と定義しており、高潔さと高い倫理基準をもって行動すること、取引のすべてにおいて公正に務め、相手とその職業に対して尊重の念をもつこと、自分の職業スキルを活かして若い人々を導き、特別なニーズを抱える人々を助け、地域社会や世界の人々の生活を高めることにロータリアンの行動規範を定めているということを勉強させていただきました。

### 国際奉仕部門

永井 一史委員

戸田カウンセラーより、①プロパー事業：国際大会、日台、日韓、バギオ基金などは決定していることなので、目標を決めて実施する。②包括事業：親睦及びプロパー事業の横のつながりを実施する。③今日のホテルのトイレの使用状況について：「モラルがないような人間が国際奉仕などできるわけがない」とお叱りがありました。次期委員長より次年度の活動について、各クラブ独自の活動をバックアップしていくことや、2018年トロント国際大会へ各クラブ3名の参加要請がありました。参加者はMY ROTARYからの登録がベスト。また、ネパール支援の具体例を挙げてグローバル補助金の取得申請方法の説明。地区の国際奉仕活動（日台、日韓、バギオ基金）への積極的参加要請がありました。2018年3月1日（木）台湾・高雄に於いて、日台ロータリー親善会議、2017年9月23・24日、ソウルに於いて、日韓親善会議が開催されます。慰安婦問題等、政治的には問題が生じていますが、経済的には友好関係にあります。是非参加して下さいとのことです。最後にバギオ基金への寄付要請と2018年2月9～11日、バギオ訪問のご案内がありました。

### 青少年奉仕部門

俣野 幸昭委員長

インターアクト、ローターアクト、青少年交換、職業体験の4つのプログラムがあります。インターアクトクラブは高校生までの若者が対象で、当地区には12クラブあります。ローターアクトクラブは18歳から30歳までで、15クラブあります。ロータリアンの予備軍で、その後ロータリークラブに入る方もいらっしゃいます。10月の東京ローターアクトクラブの活動は、「銀座久兵衛の三代目店主、今田景久氏と語る会」とし、久兵衛でお寿司を食べながら例会を行いました。職場体験は、数年前は当クラブでもお引き受けしておりました。青少年交換は高校生のための1年間の留学プログラムです。次年度当クラブは、スロバキアの男子学生をお預かりします。物を買って与えるのではなく心の部分で関わって頂ければ良いかと思えます。4つのホストファミリーが必要です。是非ご協力下さい。

### ロータリー財団部門

山下 憲男会員

世界のロータリアン数120万人、1人平均6000円、約200億円。ビルゲイツ財団から70億円、合計約270億円の収入です。資産は1千億円。第2580地区の目標は、年次基金150ドル、恒久基金30ドル、ポリオプラス30ドル、ロータリー平和センター20ドル、1人当たり合計230ドルです。中央分区の寄付実績では当クラブは5位で206ドルです。次年度の目標を決め、5月1日迄には、ロータリークラブ・セントラルから目標登録して下さいということでした。

### 米山奨学部門

張 碧華委員長

事業の目的は二度と戦争をしない、平和日本を世界に理解して頂くためには、アジアの国々から一人でも多くの奨学生を迎え入れ、将来、日本との架け橋となって、民間外交として友好親善を図ってほしい。日本のロータリーに最も相応しい国際奉仕事業ではないかという話でした。去年は財政状況により奨学生の人数が減少しました。また、反日の国からの奨学生をなぜ支援するのか、という声がありました。これに対し、ロータリーは国、民族、文化、職業が異なる世界中の人々が結び合い、国際理解、平和を推進することを目的とします。国家間の政治問題を個人に置き換えることなく、良き日本の理解者、友人を作ることが米山記念事業の使命です。奨学生は帰国後も日本と友好親善に推進していると確信しています。この事業は費用がかかります。是非ご理解ご協力下さい。そして、1人がカウンセラーをするのではなく、クラブ全員がカウンセラーになって頂くことが重要だと説明がありました。私はこの度、ベトナムの女性、コティ タオさんのカウンセラーになります。共立女子大学の修士課程 国際学専攻です。研究テーマは、「日本とベトナムの間に於ける教育人材育成の協力について」です。

### クラブ研修リーダー部門

大原 正道委員長

<クラブ研修リーダーを設ける必要性>  
最近RIや日本の他の地区で、研修の必要性が認識されています。規定審議会の審議内容を皆様理解して頂くためにも必要です。また、研修リーダーはクラブ年間研修計画を立て、実施し、評価をします。内容としては、クラブ指導者が地区研修会に出席する。新入会員のための研修を継続的に実施する。現会員のための効果的な研修をするなどがあります。しかし、研修が多くなると例会の出席率が下がるのではないかと危惧しています。当クラブは楽しく和気あいあいとしていますが、ロータリーを理解している方は少ないと思えます。嫌にならない程度にバランスをとって研修するようにとのことでした。

閉会点鐘

小田 孝志会長